

— 第9回 — 越智文雄 meets
高山 義浩
医師

株式会社あかりみらいの越智文雄社長が、安心安全な未来に向けた「気づき」を発信する対談連載「みらいを灯す」。第9回のゲストは、新潟県中越地震や東日本大震災など国内の災害支援をはじめ、カンボジアなどの難民支援でも活躍してきた沖縄県立中部病院の医師、高山義浩先生です。



写真／村山望

9月は防災月間。避難所の改善は急務です。

沖縄のコロナは今夏が勝負

越智 新型コロナウイルス感染症の国内における発生確認から丸4年が経ちました。集団感染が起きたダイヤモンド・プリンセス号は沖縄にも寄港しましたが、先生もあの船に行かれたのですか。

高山 はい。主に、発生した感染者について重症度に応じて搬送先を調整する係でした。また、船には丸3日ほど乗って感染対策の指導をしていました。

越智 沖縄ではまたコロナ患者が増えているそうですね。

高山 じわじわ増えていて、インフルエンザの注意報レベルになっています。ただしインフルエンザとコロナでは医療現場に対するインパクトが全然違うんです。コロナは警報レベルに達する前からどんどん患者さんが

運び込まれてきて、病床がすぐいっぱいになってしまっています。

越智 一度コロナに感染した人が増えると、次第に弱毒化すると聞いていました。

高山 はい。再感染では症状が軽くなるとのエビデンスは出ています。また、大きな変異がなければ「減衰振動」と言って、流行の波は振幅しつつ次第に小さくなる傾向があります。例えば、2020年に爆発的な流行を2回経験したアフリカでは、すぐ減衰振動に入りました。一方、日本などアジア諸国ではしっかり感染対策をして犠牲者を抑えた分、流行が長引いています。とは言え沖縄も、そろそろ減衰が見えてくるのではと期待しています。

能登半島地震の教訓とは

高山 自然災害では今年も元日に能登半島地震が起きました。波乱の幕開けでしたね。

越智 能登半島地震では避難所から「トイレが臭くてたまらない」という声が上がっているのを知り、うちの団体で次亜塩素酸水30トンを用意しました。受け入れ可能な自治体に持っていったところ「悪臭が消えた」と大変感謝されましたが、こんなに便利なのが政府の支援物資には含まれていないんですよ。ノロ対策に

も使えるのに、なぜか「効かない」「危険だ」と風評が立ち、使われなかった現場の声が届いていないのではないかと思います。

高山 ノロウイルスが発生している避難所においては次亜塩素酸水による除菌消毒が必要ですね。

越智 その避難所は断水している状態でしたので、簡易トイレの横に次亜塩素酸水を置かせてもらいました。

高山 次亜塩素酸水が届けられるなら水も届けられるはずなので、それは災害支援のオベレーションに課題がありますね。消毒薬は必要な衛生資材ですが、水は生存上必須のもので、本来は水の供給を最優先にすべきです。

越智 次亜塩素酸水はコロナやインフルエンザだけでなく、風邪や手足口病、劇症型溶連菌も不活化します。政府は次亜塩素酸水を支援物資にリストアップすべきです。今なら粉末のものもあります。ひと箱で300リットルを作ることができ、長期保存もできるので備蓄も容易です。

高山 紫外線に弱い次亜塩素酸水も、粉末なら耐えられるでしょうね。

越智 こういう安全で便利なものがあるなら積極的に備蓄するべきだと内閣感染症危機管理統括庁を含めあちこちに提言しているところですよ。

高山 災害被災地における感染管理

では、日本環境感染学会がDICT（災害時感染制御支援チーム）を派遣しています。このチームを通じて被災地に感染制御に関わる物品を供給する仕組みがあり、例えば消毒剤や感染対策製品の事業者も加わってくださっています。御社もこのDICTの支援スキームに参加いただけると、被災地支援が拡充するのではないかと思います。

越智 なるほど、貴重な情報をありがとうございます。さっそくアプローチしてみます。

停電した避難所は車で電源を

越智 防災について私が以前から言い続けていることが2つあります。ひとつは津波対策として避難時に救命胴衣を着用すること。もうひとつが停電時には車から電気を取りましようということです。

高山 電気は非常に重要ですね。

越智 北海道では2018年のブラックアウトの時にこの方法が知られるようになりましたが、全国ではまだ普及していません。例えば停電している避難所でも、車から電気を取れば扇風機や冷蔵庫が使えます。避難所の体育館1棟のサバイバルがハイブリッド車1台で賄えます。人工呼吸器や吸痰器など医療機器を持

ち込まれる方もいますから、電源対策は非常に重要だと思います。

高山 沖縄でも昨年に台風6号が襲ってきた時は、約3分の1の避難所が停電状態での運用だったようです。そうすると、みんな病院に押しかけてしまうんですよ。要援護者や、酸素が必要な人は特にそうです。

越智 停電に備えて発電機を置いている避難所もありますが、いざ使おうとしたら油が古くて動かなかったという話もあります。そんな時でも車と充電用のコードがあれば何とかなるので、多様な方法で防災を考えるべきだと思います。

高山 ケアが必要な避難者はなるべく早く、水もトイレも確保できる二次避難所に移すのが原則です。しかし実際には災害で精神的に不安定になり地域のつながりを失いたくなかったり、中には「家族が行方不明で見つかっていない」と避難を渋る方もいますから、そういう方のためにも今いる避難所を改善することは必要ですね。

越智 9月は防災月間でもありますし、過去の事例をしっかりと評価・検討して、きちんとした準備をしていきたいですね。先生も現場で勤務される中で「こういうものが使える」という情報があれば、ぜひ教えてください。

HOST

越智 文雄

Fumio Ochi

エネルギーコンサルタント
防災・危機管理アドバイザー

1957年生まれ。80年より北海道電力・電気事業連合会に勤務。97年、電事連でCOP3に立ち会う。2008年、北海道洞爺湖サミット環境総合展事務局長。12年、株式会社あかりみらいを起業。全国のカーボンニュートラル対策、完全LED化に取り組む。「(一社)日本の灯りを護る会」代表、日本除菌連合会長、(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事。



GUEST

高山 義浩

Yoshihiro Takayama

医師

沖縄県立中部病院 感染症内科・地域ケア科副部長。東日本大震災(2011年)やダイヤモンド・プリンセス号での新型コロナウイルス感染(2020年)など数々の災害現場で医療支援を経験。能登半島地震(2024年)でもDHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)の立ち上げサポートを行った。



沖縄県立中部病院

株式会社あかりみらい

akarimirai

お問合せはこちら

☎ 0120-760-814

あかりみらい

検索

フリーダイヤル受付(平日9時～17時30分)

【沖縄支社】沖縄県那覇市久茂地2-19-5

【札幌本社】北海道札幌市北区北11条西2-2-17 セントラル札幌ビル4階

【東京本社】東京都中央区日本橋室町1-2-6 日本橋大栄ビル7階